

A large, stylized pink brushstroke graphic that forms a partial circle, framing the central text.

東京エリア Debian 勉強会

資料

上川 純一 dancer@debian.org
IRC nick: dancerj

2007年12月15日



設営準備に
ご協力くだ
さい

Agenda

- 注意事項
 - 飲食禁止
 - 政治/宗教/営利活動禁止
- quiz
- 最近の Debian 関連のイベント
 - 前回
- Debian 勉強会資料は
いかにつくられているか
- 2007 年度の勉強会を
ふりかえる
- 2008 年度計画ワーク
ショップ

前回の Agenda

- quiz
- 最近の Debian 関連のイベント
 - 前回
 - OSC Tokyo/Fall
 - KOF
 - Biella 宴会
- bluetooth
- livehelper
- tomoyo kernel module
- KOF
- OSC Tokyo/Fall
- 今後の計画




Debian 常識クイズ

Debian の常識、もちろん知ってますよね？ 知らないなんて
恥ずかしくて、知らないとは言えないあんなことやこんな
こと、みんなで確認してみましよう。

今回の出題範囲は、

<http://lists.debian.org/debian-devel-announce/> に
ある最近のアナウンス文書です。

問題1. Debian Developer になる前の人たちのための制度で最近 Open Beta を開始したのは何か

-  A Debian Maintainers
-  B Ubuntu
-  C Debian Account Manager

問題1. Debian Developer になる前の人たちのための制度で最近 Open Beta を開始したのは何か

答えは:

-  A Debian Maintainers

-  B Ubuntu

-  C Debian



A

問題2. Debian Auditor は誰か

-  A Kalle Kivimaa
-  B Anthony Towns
-  C Sam Hocevar



問題2. Debian Auditor は誰か




-  A Kalle Kivimaa
-  B Anthony
-  C Sam Ho

答えは:






A

問題3. Anibal Monsalve Salazar が参加したのはどのチームか

-  A Debian System Administrator
-  B Debian Cabal
-  C Debian Maintainer Keyring Team

問題3. Anibal Monsalve Salazar が参加したのは どのチームか




答えは:

-  A Debian System Administrator
-  B Debian
-  C Debian Team






C

問題4. debian/control に追加された Vcs-* フィールドでないのはどれか

-  A Vcs-git
-  B Vcs-rcs
-  C Vcs-Mtn

問題4. debian/control に追加された Vcs-* フィールドでないのはどれか




-  A Vcs-git
-  B Vcs-rcs
-  C Vcs-Mtr

答えは:






B

問題5. debian/control でパッケージのアップストリームプロジェクトのURLを記述するためのフィールドは

-  A Homepage:
-  B URL:
-  C Upstream:

問題5. debian/control でパッケージのアップストリームプロジェクトのURLを記述するためのフィールドは




答えは:

-  A Homepage:
-  B URL:
-  C Upstream






A

問題6. dpkg-buildpackage で並列ビルドをするためのコマンドラインオプションは

-  A -rfakeroot
-  B -j
-  C -noris1

問題6. dpkg-buildpackage で並列ビルドをするためのコマンドラインオプションは




-  A -rfakeroot
-  B -j
-  C -noris

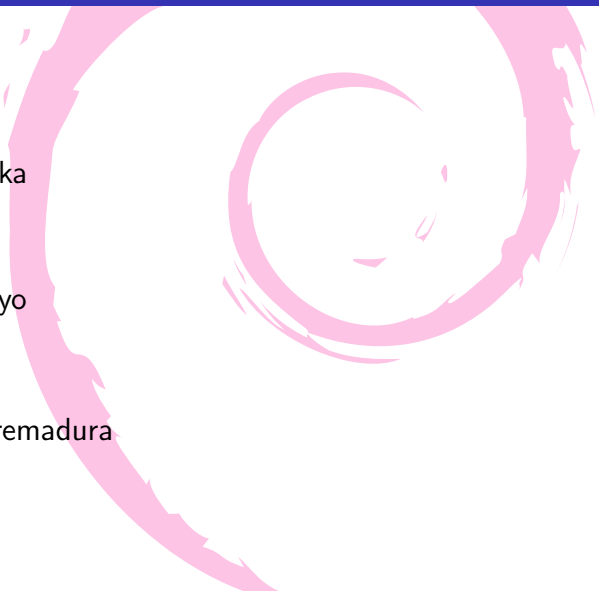
答えは:






B

問題7. 2009年開催予定の Debconf9 の場所が発表された、その場所は

-  A Osaka
-  B Tokyo
-  C Extremadura



問題7. 2009年開催予定の Debconf9 の場所が発表された、その場所は




-  A Osaka
-  B Tokyo
-  C Extremadura

答えは:






C

問題8. Policy 3.7.3.0 で追加されなかった変更は

-  A バージョン番号にチルドが利用できるようになった
-  B 自由でないものはパッケージではない
-  C Debconf を利用する場合は国際化対応必須

問題 8. Policy 3.7.3.0 で追加されなかった変更は




答えは:

-  A バージョン番号にチルドが利用できるようになった
-  B 自由でな
ジではない
-  C Debconf
国際化対応



B

問題9. gnuab にかわるリリースされていない Debian 移植版のホスティングの場所はどこか

-  A <http://www.debian-doorstop.org/>
-  B <http://www.debian-ports.org/>
-  C <http://www.ubuntu.org/>

問題9. gnuab にかわるリリースされていない Debian 移植版のホスティングの場所はどこか

答えは:



A <http://www.debian-doorstop.org/>



B <http://www.debian-ports.org/>



C <http://www.debian-w...>



B



最近の話
題、なにか
ある？



Debian 勉強 会の資料の 作成方法

作成ツール

- LaTeX を利用して印刷用資料作成
- LaTeX を利用してプレゼンテーション資料を作成 (latex-beamer)
- Emacs で編集
- git でデータ連携・管理

資料の例

基本的なコマンドの書き方をおぼえると \LaTeX も簡単です。
カスタマイズしており、一部特殊なコマンドを使っています

- `dancersection{ タイトル }{ 作者名 }`
- `begin{commandline}...end{commandline}`

```
\dancersection{東京エリア Debian 勉強会資料の準備の方法}{上川 純一}
\label{sec:debmtg2007howtoprepare}
\index{debianjp@Debian JP}
\index{とつきょうえりあ@東京エリア Debian 勉強会}
\subsection{レポジトリの取得}
```

まず最初に `git` のレポジトリを取得します`\footnote{git の使いかた詳細については、2007 年 4 月の勉強会資料を参照してください。 apt-get install git-core でインストールできます。}`。読み込み専用であれば、

プレゼンテーション資料の場合

スライドは `begin/end frame` でかこってしまいます。それ以外については `itemize` などを利用して作成します。

```
\begin{frame}{作成ツール}
\begin{itemize}
\item LaTeX を利用して印刷用資料作成
\item LaTeX を利用してプレゼンテーション資料を作成 (latex-beamer)
\item Emacs で編集
\item git でデータ連携・管理
\end{itemize}
\end{frame}
```

emacs を利用して編集

emacs + ylatex + whizzytex を利用して作成。プレビューをしながら編集ができます。

書式情報が文書情報と分離しており、印刷用資料を流用してプレゼンテーション資料を作成するのに便利です。

The screenshot shows the Emacs editor interface with two windows. The left window displays the source file `whizzy.tex` with sections 7.3.3, 7.4, and 7.5. The right window shows the Beamer presentation preview.

7.3.3 画像ファイルの処理
画像写真の画像を追加するときは、できるだけサイズの小さいpng などを利用してください。グラフなどの線画であれば、eps でかまいません。png であれば、shb コマンドを利用して bounding box を作成してください。

```
shb xxx.png
```

ps であれば、eps@ps でバウンディングボックスを追加してあげるとうまくいきます。wddipodi の出力する ps を eps@ps で見れば wddipodi で画像を作成することができます。

7.4 plATeX+IaTeX-beamer で文書作成
IaTeX-beamer で生成したファイルは現状 whizzytex+advi でプレビューできませんが、gv, もしくは xpdf を利用してプレビューすることは可能です。gv を利用する場合は最初の行に ps モードを指定してください。advi のように自動で編んでいるページにとんでくれませんが、自動リビルド、および自動更新はかかります。

```
I: whizzy document -ps gv
```

xpdf を利用する場合は下記のように設定します。

```
I: whizzy section -pdf xpdf -latex .\whizzydptex.sh
```

7.5 文章ルール
文章は敬体に統一しましょう。
固有名称は基本としては敬称略、フルネーム、で記述しましょう。日本名称の場合、苗字と名前の間には半角の空白を一文字入れます。

作成することができます。

subsection|plATeX+IaTeX-beamerで文書作成|
IaTeX-beamer で生成したファイルは現状 whizzytex+advi でプレビューできませんが、gv, もしくは xpdf を利用してプレビューすることは可能です。gv を利用する場合は最初の行に ps モードを指定してください。advi のように自動で編集しているページにとんでくれませんが、自動リビルド、および自動更新はかかります。

```
\begin{commandline}
% ; whizzy document -ps gv
\end{commandline}
```

xpdf を利用する場合は下記のように設定します。

```
\begin{commandline}
% ; whizzy section -pdf xpdf -latex .\whizzydptex.sh
\end{commandline}
```

subsection|文章ルール|
文章は敬体に統一しましょう。
固有名称は基本としては敬称略、フルネーム、で記述しましょう。日本名称の場合、苗字と名前の間には半角の空白を一文字入れます。

```
\dancerseccion|関西 Debian 勉強会のワークフロー|(矢吹 幸治)
\label{sec:kansai2007/workflow}
\index{debianjp@Debian JP}
\index{かんさいいてびあん@関西Debian勉強会}
```

```
\dancerseccion|関西 Debian 勉強会を運営して|(矢吹 幸治)
\label{sec:kansai2007/operation}
\index{debianjp@Debian JP}
\index{かんさいいてびあん@関西Debian勉強会}
```

```
\dancerseccion|各種イベント開催準備|(上川 純一)
```

git でデータ連携

```
git-clone git://git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
or
git-clone ssh://ユーザ名@git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git

cd monthly-report.git
make
git-diff
git-commit -a -m 'revised XXX'
git-pull
git-push ssh://ユーザ名@git.debian.org/git/tokyodebian/monthly-report.git
```

これだけでわからない?





19:20 まで
休憩



2007年をふ
りかえる

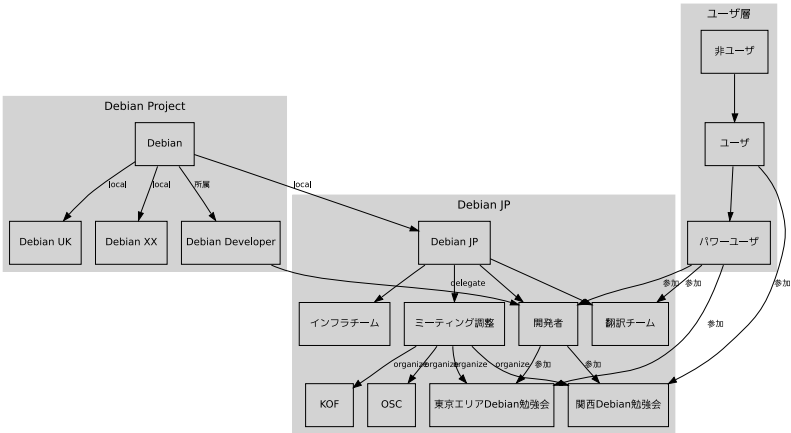


Debian JP の構成

- Debian JP の会員は開発・翻訳・インフラを担当している人により構成されています。過去の経緯により、既存の会則・方針では、Debian JP は「開発者の会」という位置づけのため、「ユーザ」については Debian JP の「会員」ではありません。
- 開発者とは Debian JP で開発を行っている人、パッケージ・スポンサーされている人、New Maintainer、Debian Developer などをいいます。
- インフラは、Debian JP の運営に必要なインフラで ftp, www, svn, ML, LDAP などをいいます。

ユーザ	開発者	翻訳者
インフラ		

Debian JP の各種会議体



Debian JP の各種会議体

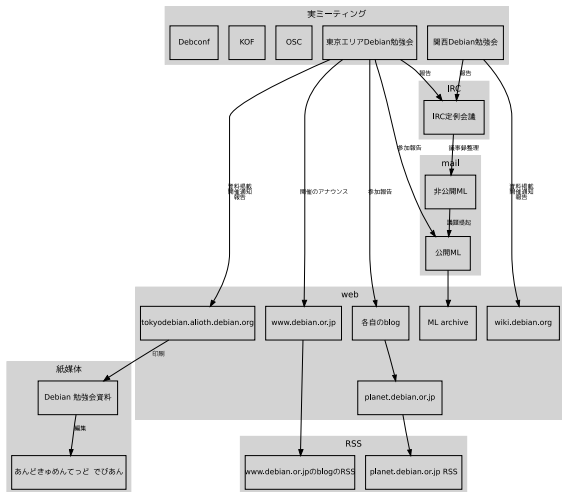
Debian JP の各種会議体の頻度とメンバー構成

会	開催頻度	目的	参加者層
総会・選挙	年一回	Debian JP 内部の運営方針の策定	Debian JP 会員
OSC	年数回	新規ユーザ発掘・公報	OSC の一般参加者
東京エリア Debian 勉強会	月一回	Debian 開発者の新規発掘と支援	Debian の開発者をめざす 東京近辺在住のメンバー
関西 Debian 勉強会	月一回	Debian ユーザ・開発者の新規発掘と支援	Debian を使う大阪近辺 在住のメンバー
IRC 定例会議	月に二回	Debian JP の運営に関する情報共有と意思決定	Debian JP 会員

こんな感じ?

情報の伝達の流れ

情報の伝達を整理してみました。



こんな感じ?

Debian 勉強会の目的

- Debian Developer (開発者) の育成。
- 日本語での開発に関する情報を整理してまとめてアップデートする。
- 場所の提供。
 - 普段ばらばらな人々が face-to-face で出会える。
 - Debian のためになることを語る。
 - Debian について語る場所を提供する。

12月の目的

忘年会をするのはなぜか

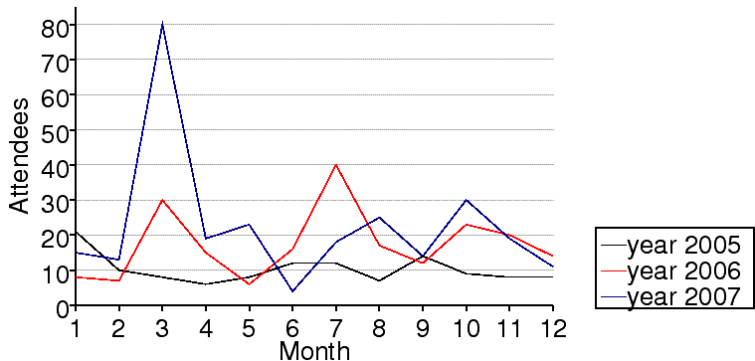
- MJK
- SS
- KKS



12月の目的

忘年会をするのはなぜか

- MJK
目的と実績の確認
- SS
将来を想定する
- KKS
計画の確認と修正



- 2007年の平均は18人くらいで、2006年の平均の16人くらいよりは増えている
- 極端に増えているわけではない

2007年実施状況

	参加人数	内容
2007年1月	15	一年を企画する
2007年2月	13	db, dpatch
2007年3月	80	OSC 仮想化
2007年4月	19	quilt, darcs, git
2007年5月	23	etch, pbuilder, superh
2007年6月	4	エンジンバラ開催：Deb-conf7 実況中継
2007年7月	18	Debconf7 参加報告
2007年8月	25	cdn.debian.or.jp
2007年9月	14	exim
2007年10月	30	OSC Tokyo/Fall(CUPS)
2007年11月	19	live-helper, tomoyo linux kernel patch, server
2007年12月	12?	忘年会



将 来 の 想
定

イベントとトレンドの確認

2005	2006	2007	2008	2009
Debian 勉強会開始、Wzero3 登場、lantank(SH) ブーム、黒箱 (PPC)、OpenBlocS(PPC) (2004 年?)、Ubuntu 開始、AMD64 が一般的に入手可能に、git の登場、ruby on rails が普及、光ファイバー普及、雑誌が消失しはじめ、スレッドテンプレ登場、	IntelMac に、coreduo で dual-core CPU に、glantank(ARM)、OpenMi-croServer(MIPS)、OpenSolaris が 出 て Debian/Solaris (Nexenta) 登場、SparcT1 がオープンに、CC3.0、Qwik 登場 (?), 雑誌が大多数消失、	VT・AMD-V(仮想化技術) が普及 (ML115!)、黒箱 (ARM)、OpenBlocks(PPC?)、iPhone 登場、HSDPA 月額 5000 円くらいに、google mobile、VISTA リリース、Leopard リリース、GPL3.0、メモリ 2G とがコモディティに、SparcT2 がオープン、ニコニコ動画、winny でページの情報流出、	FreeBSD7 リリース、Longhorn リリースで 64bit サーバが常識に、lenny リリース、ruby1.9 が出ているはず、Google Android、OLPC 日本上陸、eeePC 日本上陸、imode 世代が社会人になる、パソコンが使えない人が増え携帯に、J-SOX、thin-client 化、	VISTA がリリース、64bit でまとも稼働するようになる、4GB メモリが普及して家庭でも 64bit OS がポピュラーに、ruby2 が出ているかも、(Windows が対応したとして) Trusted Computing が一般に普及してしまう、携帯電話の普及率が 100% くらいに、日本 DMCA 法?、

2011 アナログ地上波全滅

できたこと	できなかったこと	チャンスとなるもの	脅威となるもの
OSC きっかけで Debian 勉強会に参加できた、新規の参加メンバーがきている、謎に包まれた Debian 開発者の (魅力的な) 実状があきらかに、濃さやアンドキュメンテッドなところが直接きける、二年かかったけど etch のリリース、某所で本を売ることができた、	Debconf の誘致ができない、DEB のパッケージを新規に作りたいができなかった、女の子メンバーが少ない、BTS がフレンドリーじゃない、NM を誰も通過していない、BSP で集まっても IRC で会話している、	仮想化、Debian がうらにいるものの普及 (Ubuntu・Knoppix)、Debconf が開催できるかも、世間の各種オープンになっている動き (Solaris・java・ATI)、GPLv3、Blog の普及 (情報の普及)、イベントでの告知、OSC でも興味を引いている、	thin-client、携帯への流出、会社で Debian が使えなく、Ubuntu (勝手にメンテナ・ハードウェア認識の良さでのユーザ流出・ファームウェアライセンス無視)、人材の流出 (Ubuntu, G 社)、Web の向こう側へのシフト、

		チャンスとなるもの	脅威となるもの
		仮想化、Debian がうらに いるものの普及 (Ubuntu・ Knoppix)、Debconf が開催 できるかも、世間の各種オー プンになっている動き (So- laris・java・ATI)、GPLv3、 Blog の普及 (情報の普及)、 イベントでの告知、OSC で も興味を引いている、	thin-client、携帯への流出、 会社で Debian が使えなく、 Ubuntu (勝手にメンテナ・ ハードウェア認識の良さで のユーザ流出・ファームウェ アライセンス無視)、人材の 流出 (Ubuntu, G 社)、Web の向こう側へのシフト、
できたこ と	OSC きっかけで Debian 勉 強会に参加できた、新規の 参加メンバーがきている、謎 に包まれた Debian 開発者 の (魅力的な) 実状があきら らかに、濃さやアンドキュ メンテッドなところが直接 きける、二年かかったけど etch のリリース、某所で本 を売ることができた、	認知が重要、広報活動を続 ける、 仮想化をテーマに続ける、 Debconf を誘致、 オープンになったものをペー スに勉強会を開催、	岩松さんを複数養成、thin client で Debian に、サー バ側でも Debian 稼働へ、 Ubuntu・Fedora などと協 調して人を育てる、 Web を使っているんだから Client は Debian でいいじ ゃん、Live DVD 配布して しまう、ぐるぐるじるしの Debian を、
できな かったこと	Debconf の誘致ができない、 DEB のパッケージを新規に 作りたいができなかった、 女の子メンバーが少ない、 BTS がフレンドリーじゃな い、NM を誰も通過していな い、BSP で集まっても IRC で会話している、	開発者育成のプログラム (何 を気をつけるか・これはやる べき・やらないべき・パッケ ージのいじりかたの流れ)、四 国の Linux ユーザを増やす、 女の子を仮想化、Debian の 擬人化 (なんとかミク)、	



計画の確認 と修正

2008 年度も、毎月第 3 土曜日開催、場所不定。内容としては、開発者育成連載企画を実施する。

- 1 新年会「気合を入れる」
- 2 OSC、バージョン管理ツールを使い Debian パッケージを管理する (git) アップストリームの扱い (svn/git/cvs)
- 3 データだけのパッケージを作成してみる、ライセンスの考え方
- 4 バイナリーつのパッケージを作成してみる man の書き方 (roff or docbook)
- 5 バイナリの分けたパッケージの作成。バイナリの分け方の考え方、アップグレードなどの運用とか。
- 6 パッケージ作成 (dpatch/debhelper で作成するパッケージ)
- 7 パッケージ作成 (kernel patch、kernel module)、Debconf 発表練習
- 8 Debconf アルゼンチン、共有ライブラリパッケージ作成
- 9 OSC-Fall、デーモン系のパッケージの作成、latex、emacs-lisp、フォントパッケージ
- 10 パッケージの cross-compile の方法、amd64 上で i386 のパッケージとか、OSC-Fall 報告会、Debconf 報告会
- 11 国際化 po-debconf / po 化 / DDTP
- 12 忘年会



事前課題の 紹介

事前課題問題

「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて2007年を評価してみた」と「2008年のDebian 勉強会のために私はこうします」というタイトルで200-800文字程度の文章を書いてください。

事前課題提出状況

ちなみに、2007年の課題の提出状況はこんな感じ

	参加数	提出人数	内容
1月	15	6	今後、勉強会につかう施設を提案してください、2007年の勉強会の各月のアジェンダを提案してください
2月	13	8	apt に足りなさそうな機能、パッケージングをしてみて感じたこと、または何故パッケージングをしないか
3月	80	6	仮想化を実際にこういう利用方法で活用しています
4月	19	14	私はバージョン管理システムをこのようにつかっています
5月	23	14	「エッチになって困った事」
7月	18	12	今後 Debconf を日本で開催するために Debian の認知度を上げる方法、企業が Debconf のスポンサーになるためには
8月	25	18	ここ最近 Debian を使っていてハマったこと/ちょっと感激したこと、apt の sources.list はこう書く
9月	14	7	「あなたが Debian で使っている MTA のこだわりの設定」もしくは「Debian で利用しているこんな便利な/楽しいメッセージツールあるいは日頃使っていて気にかかるメッセージ関連ソフトのこの部分」
11月	19	10	「Debian の Live CD ってこんなふうに使ってます」もしくは「ノート PC やデスクトップ PC ではなく、サーバ機器での Debian に期待するものって何？」
12月	11	11	「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」と「2008年の Debian 勉強会のために私はこうします」

Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

少ししか参加していないのでなんともいえない、です...でも、Debian 勉強会のことを知り合いに話したら興味を持ってもらえたので自分の中ではよし、とします。

2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします
実は、地元に戻ってしまうので、私自身は参加できないのですが、友人にがんばってもらいます。地元でもちょっと普及の努力をしてみようかな...

Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

メールでは読み取れない情報について情報共有する場を作る

これに関してはもっと参加者が分からなかった事などを積極的に聞いたり、また自分で調べて発表するとか、そういう姿勢が足りなかったと思います。

Debian の利用方法を整理する場を作る よりよく使う方法と、よりよくする仕組みを作る方法があると思いますが、前者にフォーカスしていたので（フォーカスしやすいというのもありますが）、来期は2部構成などで、使う方法、作る方法など講義や論議が分かれていたらよいかもしれないーと思いました。

2008年の **Debian** 勉強会のために私はこうします
git を使えるようにします。Latex でもっと多彩な表現が出来るようにします。会社の引継ぎを Debian 使いにします。
Exim の普及活動もついでにします。未来の Debian 使いを増やします。

「**Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた**」

「勉強会の目的」を探してみたのですが、どうも見あたらないようでした。東京エリア Debian 勉強会のウェブページに、背景として「2005 年当初、東京近辺で、類似の勉強会は存在していませんでした。Debian について語る場所を提供するため、Debian 勉強会を開催します。」と書かれており、これが目的に相当するのではないかと思います。語る場として機能していたと思います。

「**2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします**」
風邪で休んでしまったこともあったので、風邪ひかない。

「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

うーむ、2007 年の時点では、スーパーハカーにはまだなれていません。

「2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします」
こんなわたくしでもお役に立つなら、お手伝いくらいはします。ただ、現在何が不足していて、どうお手伝いすればいいのかが分かりません。「雰囲気作りのために、声を出していこー」と、体育会みたいなノリでいいですかね？願わくば、講師ができるぐらいのスーパーハカーになればいいのですが...

「**Debian 勉強会**の目的と照らし合わせて**2007年**を評価してみた」

Debian 勉強会の本来の目的というと、Debian の開発者を増やす事ですよね。勉強会として今年を振り返ると、年初の勉強会でまずは裾野を広げ、分母を増やして開発者候補を増やそうという目標になった記憶があります。その点については新規参加者が増えたので成果はあったと思います。自分自身を振り返ると今年には昨年参加し始めたころからますます『お客さん』化しているなと反省。おまけに、未だ自宅鯖も Sarge のままだし。

「2008年の **Debian** 勉強会のために私はこうします」
初心に戻り、当初勉強会に参加しようと思ったきっかけである、Hobbit の Debian の公式パッケージ化を目指して、ライセンスあたりが面倒でいつも中途半端になっている Debian パッケージの勉強をちゃんとします。ほいで、完全に放置状態にしてしまった査読を一日10分でもやります。その前に年内には、この帰っても休みでも仕事な状態を脱しないと。

Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

今年の勉強会の目的は、(女子高生などはともかく) 参加者を増やすことだった気がするので、それはクリアできたのではないかと思います。ただ、参加者を増やしたことが広義の開発者(公式開発者でなくてもパッケージ管理や翻訳に携わっている人を含む)の増加に繋がっているかといえば、間違いなく No でしょう。参加者がガリガリと Debian パッケージのメンテナンスをするような姿を想像する当初の目的とはずれてきている気がします。

2. 2008年のDebian勉強会のために私はこうします
こんなところでしょうか。

- Debian 勉強会出身の公式開発者の一人になるべく New Maintainer (NM) process を進めます
- buildd や dak について勉強して皆さんの前で話をできるようにします。
- もし翻訳関連で何か話すべきことがあれば話をします。

Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた

Debian 勉強会の目的とは

<http://tokyodebian.alioth.debian.org/> から「Debian について語る場所を提供するため、Debian 勉強会を開催します。」と判断しました。

2007 年の東京エリア Debian 勉強会は、上川さん、岩松さんの毎回の勉強会での Debian の深いお話、イベントレポート、やまねさんの初心者をも Debian に引き込むプレゼンなどなど、素晴らしいお話を聞ける勉強会でした。元は東京で始まった、Debian 勉強会は関西でも定期的開催されるようになり、荻窪、代々木、新宿 (OSC)、イギリス エジンバラ、IRC 開催等、地域や国、3次元の枠を超え、活動的であれば幸いです。

2008年の Debian 勉強会のために私はこうします
私はごくごく一般人のため、Debian 勉強会への貢献は難しいとは思いますが、イベントで Debian 勉強会関連の冊子の配布に協力させていただいたり、別の勉強会主催のインストールパーティで何も知らない一般人の PC(の VM 上)に Debian をインストールするなどひっそりと協力させていただこうと思います。

あけど

「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

今年 1 年を振り返って、自分に何が出来たのか考えてみました。

- 1 月一年の計画を立てた。
- 2 月 apt を少し勉強した。
- 3 月仮想化を少し勉強した。
- 4 月バージョン管理システムを少し勉強した。Mac に Debian をインストールしてみた。
- 5 月 Etch を少し勉強した。管理している Debian マシンを Etch にしてみた。
- 6 月エジンバラに行ってるメンバーと IRC しようとして挫折
- 7 月（お休み）
- 8 月 cdn を少し勉強した。BSP に参加、少し査読。…って残りがまだあった! orz
- 9 月（お休み）
- 10 月 OSC で盛り上がった。
- 11 月（お休み）

後半は何かと忙しくて時間が取れなかったこともあり、殆ど何も出来てません。点数でいえば 20 点くらい? やりたかった事は何もできてませんので、来年はもう少し計画的にやって何か出来たという風にしたいです。

「2008年のDebian勉強会のために私はこうします」
今年の反省を踏まえ、自分に出来そうなことをやっていきたいです。1つは、マニュアルのレシピ化というのを考えています。いわゆる事例集のようなものですが、各コマンドの実行例とコマンドオプションのポイントといったものをまとめてみたいと思います。来年の後半には何らかの発表が出来るようにしたいと思います。

今年勉強会で実現できたこと:

オープンソースのカルチャーに触れて、オープンソース開発に興味を持てた。

来年勉強会で実現したいこと:

実際にオープンソース開発プロジェクトに貢献（パッチを投げられる）し、その過程や成果についての報告や、アドバイスが受けれるようにしたい。


「Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみた」

お題を見て、改めて勉強会の Web ページを見たのですが、「背景」はありますが「目的」はないですね。（見落としている？） 「背景」にある「Debian について語る場所を提供するため」というのが目的だとすると、有識者の方に大いに語って戴いて、（私の理解の範囲外なものもありましたが）多くの有用な知識を得ることが出来て、私にとっては（勉強会の後の懇親会も含めて）大変有意義であったと思います。

真の目的（？）にはまったく貢献していませんが、無能が故ということでお許しください。

Debian 勉強会の目的と照らし合わせて 2007 年を評価してみたところ、自由の戦士 (Debian Developer) を量産することが目的だったのに、第 3 次自由の戦士量産計画は成果を出せずに終了しました。ふがない。

「2008 年の Debian 勉強会のために私はこうします」という観点からいうと、もしかして、NM キュー通過のためのブートキャンプなどをすればよいんじゃないか？



2008年を計
画する

宴会場所

- 宴会場所
本日の宴会は「刻」です。参加者は1Fに集合し、全員で移動しましょう。
- 片付け
部屋を片付けるのにご協力ください。